

京北宇津ふれあい学びあい

活動場所：右京区 活動開始：平成 25 年 4 月～

京都精華大学
京北宇津宝さがし会



宇津自治会

■ 地域が抱えていた課題

地域の代表的な産業であった林業・漁業の衰退に伴って人口が都市部に流出し、急激な過疎化が進行している。豊富な地域資源を保持しながらも、農耕地や山林、空家の維持管理も課題となっている。地域自治会を中心に地域内は強く団結しているが、地域人口の高齢化に伴い行事等の運営も人手不足に悩まされていた。自家用車と一日数便のバス以外に交通手段はなく、地域内に日用品を取り扱う店舗もないため、交通弱者の買い物問題も課題である。

■ 取組（連携）のきっかけ

本学教員と住民とのつながりをきっかけとして、本学との交流が始まった。平成 25 年度に宇津地域での活動が「学まちコラボ事業」に採択された。

平成 27 年度には学生の活動メンバーが 20 名を超え、平成 28 年度も引き続き、学まちコラボ事業の採択を受け、活動している。

■ 具体的な連携の取組

本団体名の由来でもある「地域に住んでいては気付けない魅力の発見」をテーマに年間を通して活動している。具体的には、子ども向けイベントの主催、地域調査等を実施している。その他、閉校した小学校に残されていた写真や児童作品等の資料整理、地域パンフレットの作成、地図看板の作成・設置等多岐に渡り活動している。

地域行事にも積極的に参加し、平成28年度には夏祭の実行委員会に正式に任命されるなど、地域の一員として活動している。

■ 今後の活動

現在まで地域内での活動を中心としてきたが、地域と地域外の交流をいかに促すかが目下の課題である。一方、地域内の「宝さがし」も十分であるとは言えず、地域と密着した活動も継続して行っていく。今後子ども向けワークショップの開催、地域行事への参加も予定している。また、地域活性化を目標に宇津で活動している別の団体とも交流、連携し、さらに活動の幅を広げていく。

■ 成果

①大学・学生の視点

本団体は平成28年で活動4年目だが、活動開始当初と比べ、より多くの地域内外の方々から協力を得られるようになった。地域に足を運ぶ度に「次はいつ来るの？」と聞かれるようになり、地域の方の期待と認知度の高まりを実感している。学生にとっても宇津での体験は大学では得難い貴重な経験であり、実地的な学びの機会となっている。中には宇津が気に入り過ぎて永住を宣言し、移住した学生スタッフもいる。

②地域の視点

- 何かやろうとしても先入観と固定観念で否定的になりがちな地域に、若者特有の素直で屈託のない実行力を与えてくれた。
- 地域住民自身が気付かない、地域の魅力・視点を示してくれた。
- 地域の大きな行事に進んで参加いただき、実施継続の上での大きな力になっている。
- 宇津地域の案内看板やパンフレット制作等広報面でも中心的な役割を果たしてくれており、仕掛構想の段階であったものを実現することができた。

活動写真



子供フェスタ 灯籠作り



子供フェスタ 鮎つかみ



公園の色塗り後集合写真



看板作り



子供フェスタ 公園の色塗り



ウォーキングマップ作成の様子

京北宇津ふれあい学びあい



学まちコラボ事業（平成25～28年度採択）